

令和 4 年 6 月 23 日現在

機関番号：12401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K14032

研究課題名(和文)音楽づくりを通して表現する力の育成を目指す保育者養成の実践プログラムの開発

研究課題名(英文) Designing a Practical Program to Develop University Students' Ability to Express Themselves through Creative Music-Making in the Early Childhood Education and Care Teachers Training Course

研究代表者

三橋 さゆり (MITSUHASHI, Sayuri)

埼玉大学・教育学部・准教授

研究者番号：70758440

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、保育者を目指す学生が音楽づくりを通して表現する力を獲得するための実践プログラムを開発し、その有効性を実証的な研究方法を用いて検証することであった。そこで、学生が表現する力を獲得するための音楽づくりの実践プログラムを立案して、学生が協働で音楽づくりを行う授業を実施し、学生の省察レポートを分析して音楽づくりのアイデアが発想される過程に関する要素及び理論的枠組みを明らかにした。これにより、音楽づくりの活動を通して、学生の創造性が発揮されるプロセスを提示することができた。この研究成果は、音楽づくりや協働での創造的な活動に生かすことができると考えられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、協働での音楽づくりにおいてアイデアが発想されるプロセスが明らかになった。この成果を保育者養成において、表現する力の育成を目的とした授業等で活用することで、学生が保育者となって実践する際に、表現力を発揮したり、子どもの表現の意図を促す援助を行ったりすることができる等、本研究の知見は、教育や保育の現場での実践力の育成に貢献できると考えられる。

研究成果の概要(英文)：This study aims to design a practical program to aid university students who intend to become early childhood education and care teachers in acquiring the ability to express themselves through creative music-making with others. For this purpose, I organized a practical program on creative music-making and implemented it to verify its effectiveness through empirical research methods. I analyzed reflection papers students wrote to clarify the elements and the theoretical framework related to the process in which students generated ideas about creative music-making. This study was able to present the process through which students demonstrated their creativity through creative music-making activities with others. I believe that the findings of this study can be applied to creative music-making and creative activities in collaboration with others.

研究分野：音楽教育

キーワード：音楽づくり 保育者養成 表現

1. 研究開始当初の背景

幼稚園教育要領において「表現」は領域の一つとして位置づけられており、幼児期に表現する力を培うことをねらいとしている(文部科学省 2018)。表現する力は、芸術分野だけにとどまらず、他者とコミュニケーションを取ったり、協働で物事を遂行したりするために必要な社会的能力の一つである。そのため、幼少期から表現する力を培うことは、その後の生活や学習に必要であるといえる。

幼児の表現する力を育成するには、彼らを指導・援助する保育者自身の表現に関する理解や技能の習得が不可欠である。幼児の表現を創発させるような環境を構成し、表現の意図を刺激するような題材や教材の計画を行うのは保育者である。また、表現の意図をもっていてもそれを実現する方法が分からずに戸惑っている幼児がいる場合、保育者は表現の方法を提供したり、幼児の表現を援助したりすることもある。これらの役割を果たすためには、表現を柔軟に捉えて幼児の表現を受け止め、自由な発想で自分の表現を発信するというような表現する力が保育者には求められる。

芸術分野の創造性に関する研究では、自分の意図を他者に伝えるために、伝えようとしていることは何か、どのような方法でそれを伝えようとするかについて表現者が自覚する重要性が指摘され、表現者がそれらを自覚する過程が、初心者の写真創作の過程を検討することを通して明らかにされている(石黒・岡田 2013)。音楽をつくる表現活動においては、音楽で何を表現しようとするのか、表現するためにどのような音素材を用いてその音素材をどのように組織するかという課題に取り組むことになる。このことから、音楽づくりは、表現の意図や表現の方法を自覚する経験ができるため、表現する力を育成するための有効な活動であると考えた。そこで、本研究では、表現する力の獲得を目指すために、音楽づくりの活動を実践プログラムの柱とする。

2. 研究の目的

本研究の目的は、保育者を目指す学生が音楽づくりを通して表現する力を獲得するための実践プログラムを開発し、その有効性を実証的な研究方法を用いて検証することである。音楽づくりでは、音素材の探索や音同士の構築などを行って自分の意図を表現していくため、表現する力を獲得するのに効果的な活動であるといえる。そこで本研究では、学生が表現する力を獲得するための音楽づくりの実践プログラムの開発を目指す。

3. 研究の方法

(1) 実践プログラムの立案と実施

まず、音楽づくりの理念や方法、指導方策に関する文献調査を行った。併せて、保育者養成の実践プログラムを開発することから、幼児の音楽的発達に関する研究を調査し、幼児の音へのアプローチの特徴に関して明らかになっていることをまとめた。さらに、保育者を目指す学生が受講する「保育内容『表現』」の授業において、音楽づくりの課題を提示し、彼らの音楽づくりの過程を観察した。

次に、音楽づくりや幼児の音楽的発達に関する文献調査等の結果と、学生が行った音楽づくりの過程に関する観察の記録を基に、Paynter & Aston (1970) やシェーファー (2009) 等を参照しながら、音楽づくりの実践プログラムを計画した。そして、計画したプログラムを授業で実践した。実践プログラムの内容は、リズム遊びや歌および身近なものから音素材を探る活動や音素材を構成する活動、これらの活動で得た経験を土台として行う言葉や造形作品、絵本を題材とした音楽づくりの活動である。1回の授業は主に3部で構成されている。まず全体の活動として、音遊び等、学生が主体的に参加できる活動を通して音楽づくりの方法を提示した。その後、グループ活動の時間を設けた。グループ活動では、前半の活動を通して経験した音楽づくりの方法に基づき、学生が音楽をつくった。グループ活動において音楽をつくる過程では、学生が自分たちの音楽表現を録音・録画して省察したり、絵を描いたり、メモを取ったりできるように、タブレット型コンピュータを導入した。最後に、グループ活動でつくった音楽を学生が発表する機会を設定し、授業を受講している学生はそれぞれのグループがつくった音楽を鑑賞した。さらに、授業後には、その日に行った音楽づくりや他のグループの音楽表現を振り返るための省察レポートを学生が書き、学生が省察する機会を設けた。

(2) データの収集

実践プログラムの有効性を検証するために、全体活動、グループ活動、つくった音楽の発表という一連の実践を、ICレコーダーによる録音とビデオ撮影により記録した。ICレコーダーによる録音からは、主にグループ活動の発話を収集した。ビデオ撮影からは、音素材や楽器をどのように奏でたかというような学生の行動や学生同士の相互行為、視線の方向、表情等の情報を収集した。加えて、グループ活動中の描画やメモ、活動後に作成した省察レポートを、実践プログラムの有効性を検証する資料とした。

4. 研究成果

(1) 音楽づくりと描画が関連した実践の成果 (三橋 2020)

音楽と描画の関係に着目した実践を対象に、学生が作成した描画及びつくった音楽等の成果物や省察レポートを分析し、他者の演奏や描画から学生が表現の意図をどのように解釈したのか、それに基づいて自分たちの音楽をつくるために何を思考し、音楽へと構成したのかを探った。実践の内容は、学生が音楽をつくり、その音楽を描画で表す活動と、その描画を他の学生と交換して、他者の作成した描画から音楽を再構成し、演奏するものである。

学生は自分と他者の演奏を比較し、他者の表現の意図や奏法の工夫を発見した。加えて、学生は、描画を介して他者のイメージを想像し、それを音楽づくりの着想としていた。視覚芸術の分野では、自分と他者の表現の比較が、表現活動の動機づけやアイデアの創発に影響することが指摘されている (例えば石黒・岡田 2019)。さらに永岡 (2003) は、絵本を題材に、絵、ことばを介して音楽をつくる活動を検討して、保育者養成における表現教育でアナロジー的思考の有効性を主張した。本実践においても、他者の作成した描画に基づいて音楽をつくって演奏し、その演奏を共有する過程で、比較や類比が生じた。このことから、他者の音楽表現との比較及び諸感覚を伴う類比が表現の理解や創造性の発揮に関連することが示唆された。

(2) 音楽づくりにおけるアイデアの発想に関する理論的枠組み (三橋 2019, 2021)

身近な素材を用いた音楽づくりの活動を通して、学生がアイデアを発想し、音楽を構成していくプロセスをグラウンデッド・セオリー・アプローチ (戈木クレイグヒル 2008, 2016) に基づいて分析した。具体的には、学生が作成した省察レポートから、彼らが音楽づくりを通して感じたことや考えたことの記述を分析してカテゴリーを抽出し、音楽づくりのアイデアの発想にどのような要素が関連しているかを明らかにした。そのために、学生のアイデアの発想とそれに基づいて生じる学生同士の相互行為という視点で分析を行い、理論的枠組みを提示した。その結果、学生が聴覚を中心とした諸感覚を働かせて、そこからイメージを想起して音楽づくりのアイデアを発想することが明らかになった。さらに、グループ活動において、学生同士がアイコンタクトを取り、動作の模倣や動作の同期が起こると、他者との協働が有効に作用することが示された。加えて、比喩表現を用いて音の感じ方やイメージを言語化すると、学生が自分と他者の音の感じ方やイメージに違いがあることを認識し、他者の音の感じ方やイメージを肯定的に捉えてそれに興味をもつことが示唆された。幼稚園教育要領における領域「表現」の解説には、幼児が諸感覚を働かせて素材の特徴を認識することや教師が幼児の思いを受容し、幼児が他児の思いに出会うよう援助する重要性が明記されている (文部科学省 2018)。そのため、保育者を目指す学生が本研究で提案した音楽づくりを経験することで、幼児が素材やそれから生じる音に興味をもつための環境の構成や幼児の表現の受容に関する援助に活かすことができると考えられる。さらに、本研究で提示した理論的枠組みは小学校以上の音楽科における音楽づくりの実践や協働で行う創造的な活動に応用できる可能性があるといえる。

<引用文献>

- Paynter, J. & Aston, P. (1970). *Sound and Silence: Classroom Projects in Creative Music*, Cambridge: Cambridge University Press. (山本文茂・坪能由紀子・橋都みどり訳(1982)『音楽の語るもの 原点からの創造的音楽学習』音楽之友社.)
- 石黒千晶・岡田猛 (2013) 「初心者写真創作における“表現の自覚性”獲得過程の検討 他者作品模倣による影響に着目して」『認知科学』20 (1), pp.90-111.
- 石黒千晶・岡田猛 (2019) 「絵画鑑賞はどのように表現への触発を促進するのか?」『心理学研究』90(1), pp.21-31.
- 戈木クレイグヒル滋子 (2008) 『実践グラウンデッド・セオリー・アプローチ 現象をとらえる』新曜社.
- 戈木クレイグヒル滋子 (2016) 『グラウンデッド・セオリー・アプローチ改訂版 理論を生みだすまで』新曜社.
- シェーファー, R. マリー (2009) 『サウンド・エデュケーション』(新版) 鳥越けい子・若尾裕・今田匡彦訳, 春秋社.
- 永岡都 (2003) 「保育者養成における<表現>教育の方法に関する一考察 『アナロジー』をキーワードにした音楽づくりの試みから」『日本保育学会大会発表論文集』56, pp.114-115.
- 文部科学省 (2018) 『幼稚園教育要領解説』フレーベル館.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 三橋 さゆり	4. 巻 44
2. 論文標題 音楽づくりにおけるアイデアの発想に関する理論的枠組み 保育を学ぶ学生による協働場面の分析を通して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本教科教育学会誌	6. 最初と最後の頁 51～64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18993/jcrdajp.44.1_51	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 三橋さゆり
2. 発表標題 表現の伝達を促す活動の検討 保育者養成における音楽づくりと描画が関連した演習の分析を通して
3. 学会等名 日本保育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三橋さゆり
2. 発表標題 身近にある素材を用いた音楽づくりの教育的効果関す検討 保育者を目指す学生を対象に
3. 学会等名 日本教科教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三橋さゆり
2. 発表標題 保育における歌唱の役割 歌唱の生起場面における保育者と幼児の相互行為の分析を通して
3. 学会等名 日本保育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三橋さゆり
2. 発表標題 幼児の主体的な音楽活動を創発させる環境設定の試み 木琴や鉄琴導入時の幼児の反応を分析して
3. 学会等名 日本音楽教育学会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------